

7-3 その他道路の現況

7-3-1 サンダーレ～ディアコン間

要請書に含まれていた「農村地域の小規模橋梁建設」に関し、その要請内容を確認するため、サンダーレからバフラベに至る州道8号線でサンダーレ南方約35kmにあるディアコン部落の北側に位置する小規模橋梁の架橋地点を調査した。

当該地域は明確に整備された道路がなく、かつ、いたるところに小川が流れ、たとえ1橋を建設したとしても、道路としての機能は確保できないような草原であった(図7.1参照)。

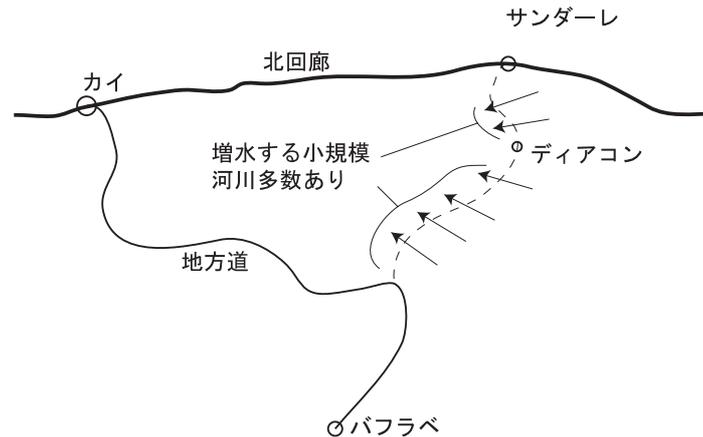


図 7.1 ディアコン部落の周辺状況

ディアコン部落は、雨季の6月から11月は、周辺の平原が氾濫することによって陸の孤島となるが、要請にあった小規模橋梁1橋の建設によって、上記の問題を解決できるものではないので、今回の無償資金の対象とはしないこととした(ミニッツ参照)。

写真 7.31 サンダーレ～ディアコン(1)



写真 7.32 サンダーレ～ディアコン(2)



7-3-2 クリコロ～バナンバ間

クリコロ州は首都バマコの北東に位置し、バマコ特別区の次に経済的に重要な地域である。バマコからクリコロ市までの57kmには舗装道路が整備されており、自動車ですら約1時間程度所要する。

クリコロ州の主要産業は第1次産業であり、農業(綿、野菜、ニジェール川流域の米、マンゴーなどの果物)の他、牧畜やニジェール川での漁業も盛んである。

クリコロ市には綿花加工工場(綿の種子を利用して搾油、肥料、石鹼なども製造)の他、小さいながら造船工場なども存在する。

クリコロ～バナンバ道路は、クリコロ市より北方のバナンバへ延びている道路であり、道路延長は約82km、現在は全線にわたって土工道路として整備されている。道路幅員は原則10mであるが、部分的に7m程度の狭い区間も存在し²、途中、潜水橋やカルバートにより小さな小川を通過している。

現在の交通量は少なく、調査団の観測ではクリコロ～シラコロラ間において自動車類が15～20台/h(双方向)、バイク・自転車類が20～25台/h(双方向)程度であった。シラコロラ～バナンバ間ではさらに少なく、自動車類は1～2台/h(双方向)、バイク・自転車類は10～15台/h程度であった。

土工道路の状態は比較良好で、まだ道路の損傷等は少なく平均で40～60km/h、局所的にあるきつい平面線形区間でもおおむね40km/hでの走行が可能であった。

現在、バナンバからニオモ(Niomo)までの土工道路が世界銀行の貧困対策の重点プロジェクトの一つとして実施され、ほぼ完成に近づいている(事業費：約50億FCFA)。

クリコロ～バナンバ間とバナンバ～ニオモ間を併せて、クリコロ州の広域道路網を形成する。

対象地域の人口はバナンバ県が143,346人、クリコロ県が176,710人であり、クリコロ州全体では、約170万人と推計されている。

バナンバ地域住民の生活レベルはマリの他の地域と同様に低く、バナンバでは道路整備、電気の供給、水供給施設整備がインフラ整備の最重要目標となっている。バナンバには日本の無償援助による小学校が存在する。

「マ」国は、当案件を今回の要請書に含んでいなかったが、クリコロ～バナンバ間の舗装工事に対する日本からの援助を強く望んでおり、今後、別途要請する意向を持っている。

写真 7.33 クリコロ～バナンバ(1)



幅員 7～10m

写真 7.34 クリコロ～バナンバ(2)



バナンバの街並み

7-3-3 ソロコロ

ソロコロはクリコロ(Koulikoro)州ディオイラ(Dioila)県ナンゴラ(Nangola)郡に属し、首都バマコから2車線のアスファルト舗装道路(国道6号線:RN6)を125km東方に走ったファナ

²道路幅員の狭い区間は盛土による道路区間に多い。

(Fana) 市から土工道路 (地方道 23 号線) を南東に 48km 進んだ地点にある。地方道 23 号線は、更に南東に進むと国道 12 号線と合流しシカソ州の州都シカソ (Sikasso) に通ずる。

バマコからファナまでの国道 2 号線はバマコ市内の起点から約 4km 区間は 2m 幅の中央分離帯を持つ 4 車線で構成され、それ以降ファナまでの 121km 区間は幅員 7m の車道と両側の各 2m 幅員の未舗装路肩を持つ 2 車線で構成される。ファナからセグー (Segou) までの区間も同様の 2 車線である。

ファナからディオイラ (Dioila) に至る州道 18 号線 (40km) 及びファナからナンゴラに至る地方道 23 号線 (42km) は幅員 9m の 2 車線土工道路である。

ナンゴラからソロコロ集落に至る 6km は幅員 9m である。ソロコロ集落の南端から直進しバウレ川に至ったところで、現在、中国の建設業者 (CGC) が、中国の援助としてナンゴラ～ソロコロ間 6km の道路とソロコロからバウレ (Baoule) 川を渡るフェリーボート用ジェットイピアを建設している。

ジェットイピアは、比較的平坦な河床に沿った幅員 5.0m の鉄筋コンクリート製で、約 200m の延長を持つ。調査時点はジェットイピア両側のコンクリート打設が行われていた。

バウレ川は「マ」国南部のコートジボアールを水源とし、蛇行しながら「マ」国のシカソ州ブグニ (Bougouni) 市などを北上し、クリコロ (Koulikoro) 州ディオイラ (Dioila) 市の西方約 40km で北東に向きを変え、モプティ (Mopti) 州の州都モプティ市付近でニジュール川に合流する国際河川である。

バウレ川はソロコロ付近で約 400m の川幅を持ち、調査時 (乾季) の通水幅は約 100m 程度であった。

ソロコロの西方約 1.2km 地点に、フランス統治時代に建設された老朽化著しい橋長約 400m の潜水橋が位置する。潜水橋は、コンクリートと石組みにより構成され約 4.0 の幅員をもつ。橋面以下の通水部はボックスもしくはスチールパイプカルバートにより確保されている。

しかしながら、コンクリートの亀裂や石組みの損傷など老朽化が著しく、現在は車両通行は不可能であり、徒歩もしくは自転車・オートバイのみが通行できる状態である。

今回の要請には入っていなかったが、「マ」国は、現存するソロコロ潜水橋の架け替えを日本に要請したいという意向を持っている。

写真 7.35 ソロコロ (1)



ソロコロ潜水橋

写真 7.36 ソロコロ (2)



建設中のジェットイピア